

令和5年度 第5回白鳥中学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和5年11月30日(木) 18:30~19:30

2 場 所 会議室

3 協議事項

(1) 特別支援教育・個別の支援について(特別支援教育コーディネーターから)

- ・今年度の新しい取組として、石薬師分校の説明会、作業体験への参加をした。実際の様子を見ることができ、よかった。
- ・通級支援教室として、創徳中より巡回が来ていただいている。現在3名通級。
- ・予定黒板の書き方についても全学級で統一している。
- ・特別な支援を必要とする生徒が増加している。教員の理解が必要である。校内研修の場で、教員自身の学びを進めた。

(2) 不登校生徒を生まない取組について

- ・学習ルームと適応指導教室の2つある。現在は、オンラインを活用して、授業に参加している生徒もいる。
- ・さつき教室については、生徒自身の状況をみて、支援会議棟で判断していく。
- ・不登校対策担当者会議は、小中で行い、夏季研修会の場でも、小中で不登校対応について一致をはかっている。

《委員からの意見など》

- ・支援の必要な生徒が増えているのか?小学校では結構見かけるように思う。  
→小学校から中学校にかけて環境が変わる。そこで、構えてしまう生徒はいる。小学校でうまくいかなかったけど、中学校で頑張れるという生徒もいる。小学校から中学校へのギャップはある。入学前には支援会議をもって、中学校にスムーズに入れるよう務めている。
- ・さまざまな生徒がいる。黒板を見ている間に忘れてしまう。耳では理解できないけど、文字で見たら大丈夫など、とにかくさまざま。
- ・通級は学力補充ではなく、教室での過ごし方、人とのかわり方を学んでいる。保護者の送迎が難しいなどの状況がある中で、巡回で来ていただけるのはとても大きい。この活動があることが、苦手な教科に取り組む姿勢がかわっていき、不登校になる要因が少し減らしていける。高校でも3校に増えた。
- ・先生の数を増やさなければいけない。退職された先生をもっと働いてもらったらいい。あと5~6年は働ける。とにかく人が足りていないのだろう。
- ・この内容が、わたしにとって経験のないことであるため、コメントが難しい。生徒の状況は個別であるということ。ここが大事。教員の対応については難しいところがあるだろう。学校以外のひとたちにも実態を知ってもらうことが重要ではないか。
- ・親の立場で考えると、どう対応していけばいいのかわからないことが多い。どこに連絡していけばいいのかなど、わからないことが多い。グレーゾーンと言われても、普通って思う。相談場所を紹介されても、相談すべきか悩むところがある。悩んでいる保護者は多くいるはず。